

7月30日の津波警報発表対応等に関する防災懇談会を開催しました

●問い合わせ／危機対策係

町では、7月30日にカムチャッカ半島付近において発生した地震に伴い、津波警報等が発表された際の当日の対応や避難された人の避難行動等を振り返り、町長、副町長が直接、町民の皆さんから広くご意見をいただくため、8月19日に役場庁舎、20日に社会福祉センターにおいて『防災懇談会』を開催しました。

懇談会では、当日の町の対応、各避難場所等の避難状況、対応における課題等を説明した後、質疑応答と意見交換を行いました。

この懇談会にご参加いただいた町民の皆さんから寄せられた意見等(要約)の一部を掲載します。

参加者から寄せられた意見

【避難方法について】

- 保育所など、子どもの避難には車両避難も検討してほしい。
- 最終的には自治会が自分で避難ができない人達を把握している。町職員では助けに行くことはできない。自治会が町と連携していくことを検討した方がよい。
- 自分で避難ができない要配慮者の避難方法を考えていかなければならない。
- 警報が出たらまず避難ということを自治会内で周知していきたい。

【避難場所等について】

- 今設置している避難場所の高さは津波の想定から十分なのか。低いと不安に感じるため、より高いところに設置してほしい。
- 今回は涼しい日だったから良かったが、炎天下や真冬に、建物のない屋外の避難場所です長時間過ごすことは難しい。
- 防災行政無線の音声で避難場所からでは聞こえなかった。
- また、災害対策本部との連絡手段が欲しい。
- 避難場所にトイレがなかったため、

置いてほしい。

【町の対応について】

- コンキリエには200台以上の車両が避難してきたため、車両の整理に混乱が生じた。町職員も車両整理にあたるべきではなかったか。
- 釧路市や浜中町の潮位はテレビ等で情報が流れていたが、厚岸町の潮位は出ておらず、津波の状況がわからなかった。
- 地域や企業で防災活動を行う防災士養成の取り組みを強化すべきではないか。
- 消防庁舎で訓練を行っていなかったのか。
- なぜ不具合があったのか、情報伝達が遅れたのか、分析をしっかりと行って欲しい。
- 防災行政無線の放送は、緊急時には緊急性を感じる声で放送してもらわないと困る。
- 職員が消防署へ避難してから防災行政無線で避難指示を出すのではなく、役場から迅速に行う必要があると思う。
- 命を守ることは、個人のスキルや知識によるところが大きい。今回、機運が高まっているため、町民に対し、防災講話などを行うと良いと思う。
- 避難場所に来ていた職員が自分自

身、どうすれば良いのか分かってない様子だった。職員教育をしっかりと行うべきだ。

●津波警報は3m以下の津波の高さであるため、大津波警報の場合とは対応を分けて考えるべきではないか。

【備蓄品・非常持出品について】

- 食料や水は、集約して置いているとのことだが、1日分くらいは各避難所等に置くべきだ。
- 徒歩での避難者は水や食料を持ってきておらず、呼びかけていた非常持ち出しが実際にはできていなかった。

今後の町の対応等について

懇談会ではこのほかにも多くのご意見、ご要望等をいただきました。

町では、今回の課題を詳細に把握し、対策を講じる必要があることから、この懇談会以外にも様々な場や機会において、聞き取りを行っていきます。

その中で、検討が必要な課題が多くあり、これらについてはこれから一つひとつ訓練や協議を重ね、解決に向けて取り組んでいきます。

また、来月号では、9月19日までを期限として、全町民を対象に行ったアンケート調査でいただいたご意見等の一部を掲載する予定です。